

「檻捕獲 ”一網打尽”」

・感染イノシシの捕獲を行いたのは山々ですが、人為的な感染拡大のリスクが大きすぎ断念せざる負えないのが今の状況です。感染イノシシが確認されていない地域におけるイノシシの捕獲、養豚場周囲等での予防的なイノシシの捕獲を行う事が重要であり今後の感染拡大阻止に効率的な方法だと考えます。

・猪は 10～20 頭程の群れで行動します。箱わなの様に群れの中の 1～2 頭が捕獲されると、その場所は危険だと群れが察知し餌を置いても檻の中には入りません。結果的に猪の行動範囲を広げ、警戒心を持った猪は繁殖して行きます。イノシシを捕獲するのではなく結果的にイノシシを学習させている事になっています。箱わなをしかけ捕まえられなくても脅かして自分の畑、養豚場の周りだけに来なくなればよい、という目先の考えで設置することは問題です。

・”一網打尽”は 1 つの檻で 10～20 頭の猪の捕獲が可能です。

・捕獲檻は猪の巣穴の近く、猪の通り道に設置します。全く猪の通る気配のない所に檻を設置しても何の意味がありません。設置場所は 30 年以上猪の捕獲、蓄養に携わった猪のプロ（狩猟免許、捕獲許可取得者）が現地を視察し決定致します。

・捕獲に際し撒き餌を檻の入り口から徐々に内部へ、猪を誘導するように撒き、日にちを掛けて群れの全ての猪が安心して餌を食べ捕獲檻の内部に入るまで待ちます。餌に関しましても長年の猪蓄養の経験を生かし、この餌を食べた猪は必ず戻って食べにくるという餌もほぼ完成形に近い物を開発出来ています。猪が檻近くに現れ出したら捕獲檻に餌を多く蒔きます。仲間を沢山連れて来て遊んで帰って行く、という事を繰り返しここでお腹いっぱいにして他で食べたくない、という風にする事が出来れば確実に大量に捕獲出来ます。

・猪の行動は夜に活発になります。猪の捕獲檻周辺と内部は無人カメラによりスマートフォンに随時送られます。無人カメラの設置位置も重要です。捕獲檻の奥、すなわち猪の進行方向正面に無人カメラを設置しても猪は警戒して檻には入りません。猪は赤外線を検知しています。

・捕獲檻に群れの猪が全て入ったと判断した時点で、遠隔操作で檻の扉を閉めます。猪は警戒心が強く運動神経もよいので扉を閉めるタイミングが非常に大切です。猪のプロが随時ご指導致します。

待てずに早めに扉を閉めてしまうとまた最初からやり直しに、更に警戒心が増すのでマイナスからのスタートとなります。来たらすぐに捕獲しようとせず焦らずに観察しながら待つことにより大量捕獲が可能です。とり急いではだめです。

・一度捕獲用に設置した大型捕獲檻（一網打尽）を移動する必要はありません。猪の生息に適した場所に設置するので、前に住んでいた群れが居なくなるとまた新たな群れがやってきて棲家とします。経験に培われた指導の下、設置場所の選定が一番重要です。新たな群れが来るまでの間、時間があるので一網打尽の半分の大きさ 2m×4m の捕獲檻（2t トラックで運搬できるサイズ）を移動させ捕獲を行い始めました。

・捕獲檻、カメラ等はシステム開発者により遠隔でメンテナンスが出来ますので安心です。